

文化的に大変価値のある港北公会堂の緞帳を

設置後初めてクリーニングを行いました

港北公会堂の緞帳は、昭和 53 年の港北区新総合庁舎落成時に設置して以来、35 年超が経過し、緞帳表地は経年に伴う汚れや劣化が進んでいる状況にありました。

緞帳の図柄「陽に萌ゆる丘」は、人間国宝である芹沢銈介氏が、江戸時代の『鶴見川流域絵図』にインスピレーションを得て、鶴見川の流れや咲き乱れる花々を描いた、港北区を象徴する作品であり、地域文化資源として大変貴重なものです。

こうした文化的にも貴重な公会堂の緞帳の品質維持及び継続的使用を可能にするため、10月 3～17 日の設備工事（公会堂休館）に併せて、緞帳の設置後初めて、クリーニング及び補修を実施しました。

【港北公会堂緞帳について】

○図案：「陽に萌ゆる丘（昭和 53 年）」

芹沢 銈介（せりざわ けいすけ）氏（重要無形文化財保持者・人間国宝）

○経緯：現「日吉の森庭園美術館」ゆかりの下田町の田邊泰孝氏（故人）が、緞帳製作に関わり、その図案のために人間国宝の芹沢銈介氏に依頼し、下絵収集にご尽力いただきました。なお、この図案原画は、日吉の森庭園美術館に展示されています。詳しくは、日吉の森庭園美術館ホームページをご覧ください。

（参考：日吉の森庭園美術館ホームページ <http://hiyoshinomori.com/>）

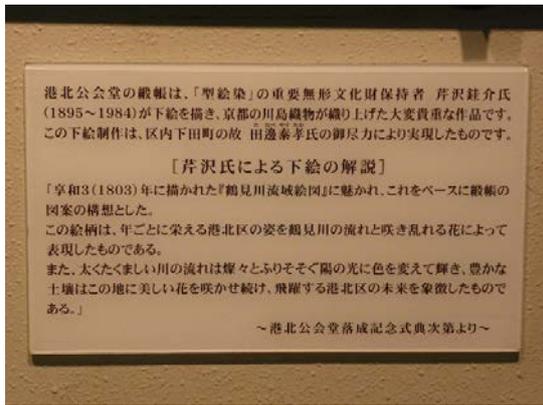
○緞帳サイズ：縦 6.5m×幅 13.2m

○緞帳制作：京都に本社がある株式会社川島織物セルコン

<図案「陽に萌ゆる丘」レプリカ>

図案のレプリカは、港北公会堂入口をに入って右側に展示しています。





【芹沢銈介氏制作の緞帳】

- ・昭和 43 年 大阪フェスティバルホール 緞帳図案「御舟渡」制作
- ・昭和 53 年 静岡市民ホール 緞帳図案「静岡市歌」制作

< 出典 > 日本美術年間昭和 60 年度版（244－356 頁）
 東文研アーカイブデータベース
 東京文化財研究所

< 作業写真 >

1 クリーニング等実施前（10月2日）



クリーニング・補修前の緞帳表地です。



クリーニング・補修前の緞帳裏地です。

2 裏地・パイプ袋・チチ紐 取替作業 (10月5日～10月8日)

(1) 10月5日



緞帳をステージ上に裏地を上にして吊り降ろし、裏地・パイプ袋・チチ紐をはずします。

※チチ紐とは、緞帳を吊るす際に、上部のパイプと緞帳を結びつける綿紐のことです。



古い裏地を取り外した状態です。三つ折り緞帳のため、中段にパイプ(袋)があります。

※三つ折り緞帳とは、昇降形式の一つで、緞帳中段から折りただんでしまいかむ形式のことです。



新しい裏地を敷き、チチ紐と一緒に縫製します。



チチ紐を糊で裏地に張り、縫い付けます。

10月6日



職人3名でひたすらチチ紐を縫い付けます。



チチ紐の縫製完了です。さすが職人の技、きれいな仕上がりです。



三つ折り緞帳の中段にあるパイプ袋も新しいものに取り換えます。下側の縫い込むところを見ずに正確に縫い付ける職人の技です。

10月7日



中間パイプ袋の取替には、写真のように緞帳中断を高くし、ひたすら縫製を行います。



中間パイプ袋の縫製です。



裏地のパイプ袋の縫製完了。



裏地仕立て完了。緞帳の裏地・パイプ袋・チチ紐の取替は3名の職人が作業し、3日かかりました。翌日のクリーニング作業に備え、緞帳の表地が上になるよう、この後、緞帳をひっくりかえます。

3 クリーニング・防災加工（10月8日～9日）

（1）10月8日



クリーニングはまず、表地の汚れをおとすため、専用の掃除機をかけます。



掃除機によってとれた粉塵です。こんなにほこりや汚れがとれました。



表面清掃後、特殊な洗剤を泡状にしたものを絨帳に染み込ませて、汚れを浮かす泡洗浄を行います。



泡洗浄した後ろから、バキュームで泡状の洗剤と一緒に汚れを吸い取ります。



バキュームで吸引・仕上げをします。



これが洗浄後、バキュームで吸い取った汚水です。こんなに汚れていたんですね！

(2) 10月9日



クリーニング作業終了後に、防災加工のための薬剤を散布します。



作業完了です。

4 緞帳吊り込み後 (10月17日)



昭和53年設置後、初めてクリーニングを実施した緞帳です。明るくきれいになりました。

今後、緞帳クリーニングの様子や人間国宝の芹沢銈介氏に関する図書資料等の展示を、港北公会堂や港北図書館、大倉山記念館で実施を予定しています。実施期間等、詳細について決まりましたら、別途、港北区ホームページに掲載します。